

歯車

学校だより

河北町立西里小学校

令和二年十一月三十日

スキー教室のこと

校長 船山 聡

子ども達の一斉下校を見送り、しーんと静かになった玄関先から山々が見えます。標高一四六二mの葉山に雪が三回降ると、平地にも雪が降ると言われます。雪の降るタイミングで、季節の移り変わりを感じます。いよいよ、冬の到来です。

地球温暖化の影響でしょうか。昨年は、雪が降らず、降っても積もらず、学校の除雪機の出番もありませんでした。もともと、雪があればあったで除雪しなければならず、雪は少ないほうが楽なのですが、困ることもあります。昨年は、グラウンドの朝日山でスキーの練習がほとんどできませんでした。練習もできないまま、Asahi自然観スキー場に出発しました。山形に生まれ、山形で暮らす子ども達に、スキー体験をさせ、どの子どもにもスキーができる楽しさを味わわせたいという願いがあります。

しかし、学校でスキーの練習もできず、スキー教室だけを行うようであれば、いつか大きなケガにつながるかもしれません。また、指導者不足や昼食代も含めて四千円近くかかる集金額、スキー板や防寒着の準備も考えると、スキー教室のあり方を見直す時期に来ていると思います。

それに、新型コロナウイルス感染症の流行です。全国的にコロナ第三波の感染拡大が見られる中で、山形県内の感染者も増加傾向にあり、今後数年間は、三密回避、マスクなどの感染対策が必要になることでしょう。

九月の段階で、天童高原スキー場から、本年度のスキー教室の受け入れ

はしないという通知が出されました。感染リスクを排除することは困難ということでした。天童高原スキー場でスキー教室を計画していた多くの学校からは、スキー場の変更や中止という判断が出されています。

スキーは外での活動なので、感染リスクはそう高くはありません。しかし、片道一時間のバス移動、当日のスキー場は複数の学校が利用するので、食堂で昼食をとるときも注意が必要です。

現時点では、保護者の皆様や町のスキーボランティアの方にスキー指導者をお願いしていますし、移動のバスやスキー教室の予約も済ませていきます。しかし、感染状況によっては、本校も、今年度のスキー教室を中止することはあり得ます。直前の中止は混乱を招くので、庄司PTA会長様とも相談しながら、できれば十二月中に判断し、お知らせします。

学校では毎朝、非接触型の体温計で子ども達の体温を計測しています。発熱が確認された場合は、すぐにご家庭にご連絡します。強いだるさ、こみあげる咳、のどの痛み、息苦しさ、頭痛や腹痛など、いつもと違う体調の悪さを確認した場合は、発熱していなくてもご連絡します。とにかく、できるだけ安静にして、早めに回復できるように対応したいと思っています。また、冬期間は、新型コロナウイルスに加えて季節性インフルエンザ、細菌性胃腸炎などの感染防止にも努めていかなければなりません。「密閉、密集、密接」の三密を避けながら、マスクや手洗い、消毒や換気などを徹底していきます。免疫力を高めるため、ご家庭の協力を得ながら、「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスのとれた食事」の指導も継続していきます。今後とも、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



図書委員 読み聞かせ